

統合開発クラウド 利用料金 概要・共通仕様

株式会社NTTデータ 技術革新統括本部 システム技術本部

はじめに

本資料では、統合開発クラウド利用料金を説明いたします。

- 対象範囲：統合開発クラウド 提供サービス
- 適用案件：統合開発クラウドを利用する全ての利用案件

1. 統合開発クラウドサービスの料金概要

1-1. 利用料金概要一覧 1/2

#	分類	サービス/機能名		費用区分	課金計算・支払パターン	料金収納先	利用料金以外にかかるコスト
1	開発環境サービス	プライベートクラウドサービス	OpenStack	条件付有償	標準社取パターン(※1)	統合開発クラウド	持込ソフトウェアのライセンス、サポート費用は利用者負担
			VMware	有償			
			Oracle DB SE2	有償			持込ソフトウェアのライセンス、サポート費用は利用者負担(※3)
		デリバリサービス	スタックデプロイ	無償	-	-	持込ソフトウェアのライセンス、サポート費用は利用者負担 スタックは無償で利用できますが、標準提供枠を超えて利用したリソースに対して利用料金が発生します。
		パブリッククラウド接続サービス	AWS	有償	個別社取パターン(※2)	データセンタ&クラウドサービス事業部	持込ソフトウェアのライセンス、サポート費用は利用者負担
			Azure	有償			
			OCI	有償	請求書支払いパターン	NTTデータ先端技術社	
		バックアップリストアサービス		有償	標準社取パターン(※1)	統合開発クラウド	-

※1：本資料「2. 標準社取パターンについて」にて説明する課金計算および支払スケジュールにそって費用を請求いただくパターンとなります。

※2：各サービスの提供元組織に対し、個別に定められたスケジュールで支払います。

※3：プライベートクラウドサービス（Oracle DB SE2）におけるOracle Database SE2のライセンス料は利用料金に含まれています。

1-1. 利用料金概要一覧 2/2

#	分類	サービス/機能名		費用区分	課金計算・支払パターン	料金収納先	サービス利用料以外にかかるコスト
2	開発支援サービス	開発ツール	開発BXO 開発BXOファイルサーバ	有償	個別社取パターン	ビジネスソリューション事業本部 デジタルビジネスソリューション事業部	持込ソフトウェアのライセンス、サポート費用は利用者負担
			TERASOLUNA Suite	無償	-	-	-
		管理サービス	PM Workbench V(X-NET) ライブラリポジトリSaaS	条件付有償	個別社取パターン	各サービス提供元	-
		プロフェッショナルサービス	まかせいのう OSSサポート CI/CD スマートフォンラボ 第三者チェック ネットワーク診断 Webアプリケーション診断	有償			-
3	開発ネットワークサービス	デフォルトネットワーク		無償	個別社取パターン	ITマネジメント室	ネットワーク機器、回線の調達維持、工事費は利用者負担
		UDSネットワーク		有償			
		UDSアクセス中継		条件付有償			

2. 標準社取パターンについて

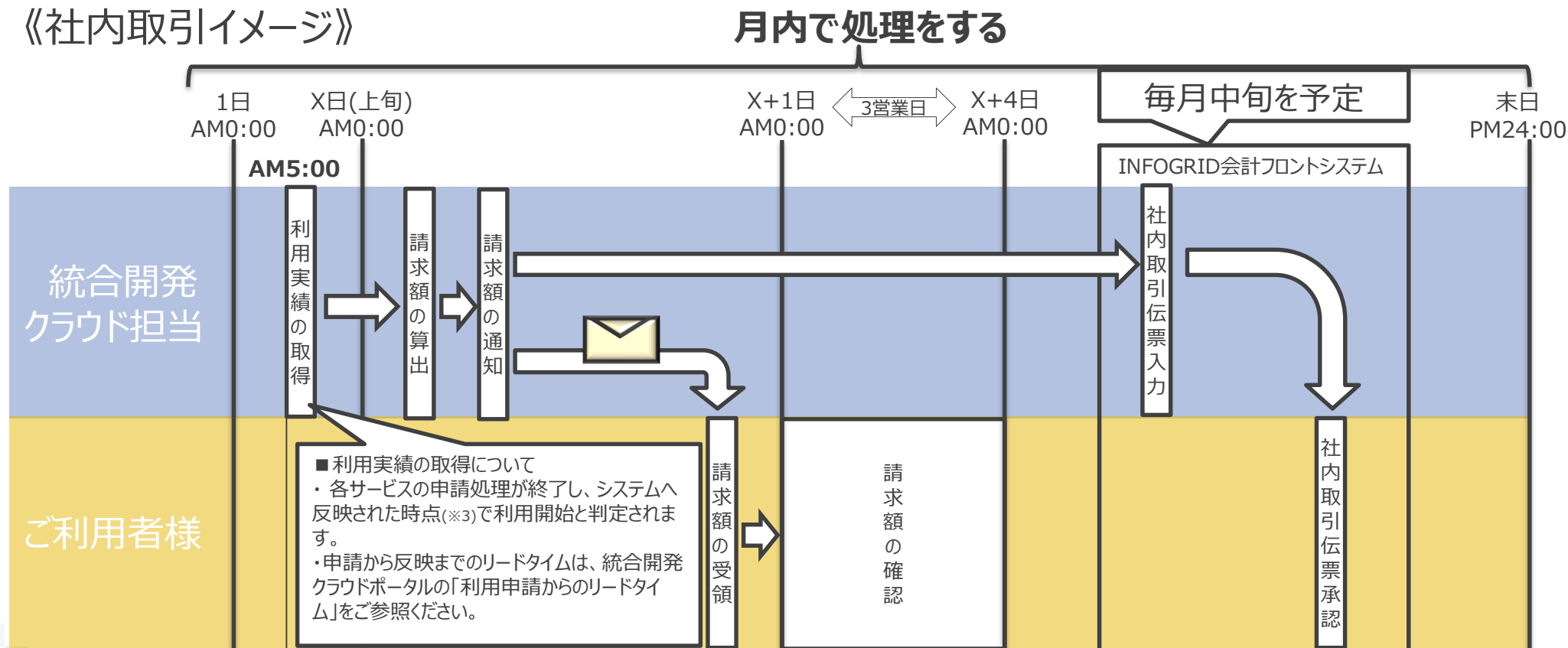
※下記サービスを対象とした標準社取パターンに関する説明になります。その他のサービスは個別の規定に従います。

2-1. 標準社取パターンにおける請求額の決定と支払方法

各月1日AM5:00の利用実績(※1)に基づき、ご請求額(※2)を決定いたします。

ご請求金額を**月内に社内取引**にてお支払いをお願いいたします。

《社内取引イメージ》



※1：プライベートクラウドサービス（OpenStack）の場合、各月1日AM5:00時点のクォータ利用量でご請求額を決定します。

ただし、何らかの理由で各月1日AM5:00時点の情報が取得できなかった場合は、以降の別時刻、別日の情報を基に請求額を計算いたします。

※2：日割り計算はされません。

※3：OpenStackのクォータ量変更等が実際に反映された時点。

2-2. 社内取引の準備

有償サービスの利用や標準提供枠を超えた利用をする場合、
[ダッシュボード利用申請]画面から請求情報を登録して下さい。

《必要な手続き》

- ・利用条件をご確認ください。
- ・[ダッシュボード利用申請]画面から請求情報を登録してください。

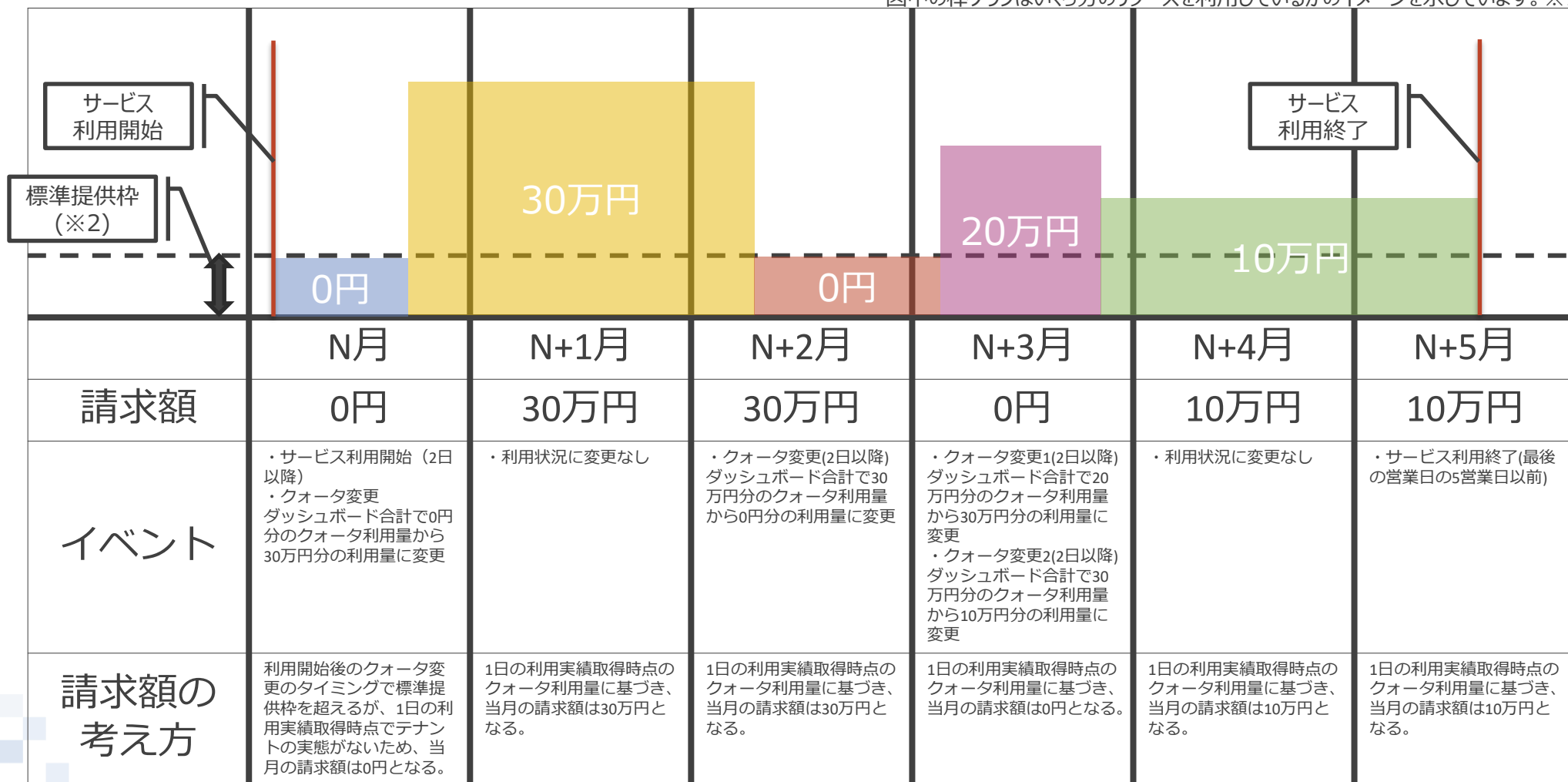
《補足説明》

- ・上記の手続き以外に、その他の事前申請や様式のやり取り等はありません。
- ・有償サービスのご利用がない場合は請求情報の登録は必要ありません。
- ・請求情報が登録されていない状態では、一部サービスの標準提供枠を超える変更申請の承認がされません。

2-3. 料金算出のイメージ -プライベートクラウド(OpenStack)を例に

利用開始から利用終了までのご請求額のイメージを示します。

※1 図中の棒グラフはいくら分のリソースを利用しているかのイメージを示しています。



※1 : プライベートクラウドサービス (OpenStack) テナント自体の追加またはテナント終了により、ダッシュボード合計のクォータ利用量が変わった場合も同様の考え方となります。

※2 : プライベートクラウドサービス ((VMware) 、プライベートクラウドサービス (Oracle DB SE2))には標準提供枠はありません。

3. ご利用ケース

※下記場合での料金例となります

・プライベートクラウドサービス（OpenStack）標準提供枠[vcpu:40コア/メモリ:100GB/ストレージ:2TB]

3-1-1. ご利用ケース1：開発LANの端末から開発を行う場合



開発
ネットワーク
サービス

【案件情報】

- ・開発期間：12ヶ月
- ・開発人数：20人

【開発環境サービス】

- ・プライベートクラウドサービス（OpenStack）
標準テナント2面
20vcpu/メモリ50GB/ストレージ1TB x2

→ 標準提供枠内の利用のため0円

- ・ミドルウェアは全てOSSを利用。

【開発ネットワークサービス】

- ・開発LANから接続(UDS接続あり)
拠点数：1
追加オプション：無し

→ 統合開発クラウド利用につき0円

費用総額：352,800円

イニシャル：115,200円

ランニング：237,600円

※：NW機器費用、回線、回線敷設費用は参考価格となります。必ず見積もりを取得し、確認いただきますようお願いいたします。また、FAT端末の調達費用、拠点内のLAN整備費用などは除きます。

プライベートクラウドサービス（OpenStack）

テナントA：20コア/50GB/1TB

テナントB：20コア/50GB/1TB

総クォータ利用量

vcpu	40コア
メモリ	100GB
ストレージ	2TB

超過クォータ量

vcpu	0コア
メモリ	0GB
ストレージ	0TB

利用料金
0円

費用項目		イニシャル	ランニング
サービス 利用料	開発環境サービス	0円	0円
	開発ネットワークサービス	0円	0円
その他費用 (※)	NW機器費用	60,000円	-
	NW回線費用	-	19,800円/月
	NW回線敷設費用	55,200円	-
小計		115,200円	19,800円/月
開発期間(12ヶ月)合計		115,200円	237,600円
費用総額		352,800円	

3-1-2. ご利用ケース1：統合開発クラウドとAWSの料金比較

AWSを利用した場合に比べ、プライベートクラウドサービス（OpenStack）を利用することでコストの削減が可能となります。

統合開発クラウドを使った場合「ケース1」 (プライベートクラウドサービス（OpenStack）抜粋)			AWSで同等の環境を利用した場合(※)		
費用：0円			費用：2,896,260円		
プライベートクラウドサービス（OpenStack）			Amazon EC2 ■ RHEL t2.medium (2コア/メモリ4GiB) x16 ■ RHEL t2.xlarge (4コア/メモリ16GiB) x2		
テナントA：20コア/50GB/1TB			Amazon EBS ■ 60GB gp2(汎用SSDボリューム) x16 ■ 520GB gp2(汎用SSDボリューム) x2		
テナントB：20コア/50GB/1TB					
費用項目	イニシャル	ランニング	費用項目	イニシャル	ランニング
開発環境サービス	0円	0円/月	EC2/EBS	0円	241,355円/月
開発期間(12ヶ月)合計	0円	0円	開発期間(12ヶ月)合計	0円	2,896,260円

※：見積もり条件は3-3.を参照。

3-2. ご利用ケース・AWS見積条件

各ケースの統合開発クラウドとAWSの料金比較において
AWS側の費用見積条件は以下となります。

- 利用料金は2017/10/16時点の下記AWSの費用計算ツールにより算出しています。
http://calculator.s3.amazonaws.com/index.html?lng=ja_JP
- 費用算出に当たり下記パラメータを前提としています。
 - リージョン：アジアパシフィック日本
 - 使用量：100%使用率/月
 - インスタンスのOS：Red Hat Enterprise Linux
 - サポートプランの選択：ベーシックサポート
 - EIP、ELBは利用無し
 - データ転送は全て0
- 1米ドル=112円(2017/10/15時点)で日本円に変換しています。
- データ転送量、IO量の変動、その他サービス利用によって価格は変動する可能性があります。
- EBSのスナップショットは含まれておりません。
- VPCおよびVPN接続の料金は含まれておりません。
- ケース2におけるRDS for Oracleの費用は、12ヶ月目までをリザーブドインスタンス(1年)とし、13～18ヶ月の料金をオンデマンドで計算しています。

